

総題 「主のために管理する」

第12課 忠実さの報い

真田 治

1. 安息日午後

今週のテーマは「忠実さの報い」です。

『広辞苑』という国語辞典には、「忠実」という言葉の意味が、「まごころを尽くしてよくつとめること」と書いてあります。「まごころ」というのは、こころの真ん中から、こころの中心から、という意味です。こころの中心から、いっしょうけんめいよくつとめるように、神さまは私たちに期待してくださっているのです。

私たちは信じることによって救われています。しかし神さまは、私たちが神さまを信じるだけでなく、私たちが忠実であることも期待しておられます。どうしてでしょうか？ 私たちが信じるだけでなく、私たちが忠実で、こころを尽くしてよくつとめることも、どうして神さまは期待しておられるのでしょうか。

今週は、私たちが忠実であることを神さまが期待してくださっている理由について考えます。

2. 日曜日：忠実さの報い

今週のテーマは「忠実さの報い」です。そして、今週の中で今日のテーマも「忠実さの報い」です。

『広辞苑』という国語辞典には、「報い」という言葉の意味が「善行や悪業の結果として自分の身に受ける事柄」と書いてあります。昨日も書きましたが「忠実」という言葉の意味は、こころの中心からよくつとめることでしたね。「忠実」の意味と「報い」の意味を合わせると、「忠実さの報い」は、こころの中心からよくつとめる結果、自分の身に受ける良い事柄、という意味になります。忠実である人は、良い報いを受けることができます。

私たちは神さまを信じる信仰によって救われています。私たちが最も忠実でなければならないことは、神さまへの信仰です。こころの中心から神さまを信じます。そして私たちが神さまから身に受ける最も大切な事柄は、救いです。ですから、最も大切な「忠実さの報い」は、「こころの中心から神さまを信じる結果として、自分の身に受ける神さまからの救い」なのです。

こころの中心から神さまを信じましょう。あなたは神さまからの救いを受けることができます。

3. 月曜日：永遠の命

昨日は、最も大切な「忠実さの報い」は、こころの中心から神さまを信じる結果として受ける神さまからの救いだと学びました。そして、今日のテーマは「永遠の命」です。忠実さの報いとして神さまから救われた

わたし えいえん いのち う と
私たちは、永遠の命を受け取ることができます。

しよろくしょうにじゅうさんせつ よ
ローマ書 6 章 2 3 節を読んでみましょう。

つみ しはら ほうしゅう し かみ たまもの しゅ えいえん いのち
「罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なので
す。」

しよろくしょうにじゅうさんせつ えいえん いのち ほんたい い み ことば し
ローマ書 6 章 2 3 節では、「永遠の命」の反対の意味の言葉は、「死」です。

つぎ ふくいんしよさんしよじゅうろくせつ よ
次に、ヨハネ福音書 3 章 1 6 節を読んでみましょう。

かみ ひと こ あた よ あい ひと こ しん もの いちひと ほろ えいえん
「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の
いのち え
命を得るためである。」

ふくいんしよさんしよじゅうろくせつ えいえん いのち ほんたい い み ことば ほろ
ヨハネ福音書 3 章 1 6 節では、「永遠の命」の反対の意味の言葉は、「滅び」です。

えいえん いのち ほんたい し ほろ いのち ほんたい くる
「永遠の命」の反対は、「死」や「滅び」です。命の反対は苦しみではありません。

わたし すく かみ そな えいえん えいえん いのち えいえん いのち えら ひと
私たちの救いのために神さまが備えておられる永遠は、永遠の命だけです。永遠の命を選ばない人は、
し えいえん ほろ いのち ほろ いっぽう わたし えら
死んで永遠に滅んだままになります。命か滅びか、どちらか一方を私たちは選ばなければなりません。永遠の
いのち えいえん ほろ ちゅうかん えいえん いのち えら えいえん わたし い
命と永遠の滅びの間はありません。永遠の命を選びましょう。そして、永遠に私たちを生かしてくださる
かみ しん
神さまを信じましょう。

よん かようび しん 4. 火曜日：新エルサレム

きのう えいえん いのち まな えいえん いのち わたし い ぼしよ てんごく せいしよ
昨日は、「永遠の命」というテーマで学びました。永遠の命を私たちが生きる場所は、天国です。聖書に
てんごく しん あたら ことば か
は、天国のことを「新エルサレム」とか「新しいエルサレム」とかいう言葉でも書いてあります。

もくしらくにじゅういっしよにせつ よ あたら か
黙示録 2 1 章 2 節を読んでみましょう。「新しいエルサレム」と書いてあります。

さら せい みやこ あたら おっと きかざ はなよめ ようい ととの かみ
「更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神の
はな てん くだ く み
もとを離れ、天から下って来るのを見た。」

あたら ぼしよ もくしらくにじゅういっしよよんせつ よ
新しいエルサレムは、どういう場所なのでしょう。黙示録 2 1 章 4 節を読んでみましょう。

かれ め なみだ と し かな なげ ろうく さいしよ
「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初
す さ
のものは過ぎ去ったからである。」

あたら かな なみだ なが ぼしよ あたら し ぼしよ
新しいエルサレムは悲しんで涙を流すことがない場所です。新しいエルサレムは、だれも死なない場所です。

あたら かな し
では、新しいエルサレムでは、どうして悲しいことがなく、どうして死なないのでしょうか。新しいエルサレムに
かな し りゆう もくしらくにじゅういっしよさんせつ か
悲しみも死もない理由が、黙示録 2 1 章 3 節に書いてあります。黙示録 2 1 章 3 節を読んでみましょう。

ぎよくざ かた おお こえ き み かみ まくや ひと あいだ かみ ひと
「そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。『見よ、神の幕屋が人の間にあつて、神が人と

とも す ひと かみ たみ かみ みずか ひと とも かみ
共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり。』

あたら かな し りゆう かみ ひと とも わたし
新しいエルサレムで悲しんだり死んだりしない理由は、いつも神さまが人と共にいてくださるからです。私
えいえん いのち あた かみ てんごく あたら わたし とも
たちに永遠の命を与えてくださった神さまが、天国の新しいエルサレムではいつでも私たちと共にいらしてく
あたら わたし かな し
ださるので、新しいエルサレムで私たちは悲しんだり死んだりしません。

てんごく あたら えいえん いのち えら わたし とも
天国の新しいエルサレムでの永遠の命を選びましょう。そして、いつでも私たちと共にいらしてください

かみ えいえん わたし い しん
神さまが永遠に私たちを生かしてくださることを信じましょう。

5. 水曜日：主人の前で清算する

ふくいんしょにじゅうごしょうじゅうよん さんじゅうせつ はな ぼなし
マタイ福音書 2 5 章 1 4～3 0 節に、イエスさまが話された「タラントンのたとえ」というたとえ話が
か かね たんい いち やくいちおくえん
書いてあります。タラントンはお金の単位で、1 タラントンは約 1 億円です。

しさんか たび で まえ さんにん じゅうぎょういん かね あず ひとりめ ごおくえん ふたりめ におくえん さんにんめ
資産家が旅に出かける前、3 人の従業員にお金を預けました。1 人目には 5 億円、2 人目には 2 億円、3 人目
いちおくえん あず ひとりめ ごおくえん とうし じぎょう ごおくえん かせ けいじゅうおくえん ちくざい
には 1 億円を預けたのです。1 人目は 5 億円を投資して事業をし、5 億円を稼いで、計 1 0 億円を蓄財しました。

ふたりめ におくえん とうし じぎょう におくえん かせ けいよんおくえん ちくざい しさんか かせ せいさん はじ
2 人目は 2 億円を投資して事業をし、2 億円を稼いで、計 4 億円を蓄財しました。資産家が帰ってきて清算を始
しさんか ひとりめ じゅうぎょういん ふたりめ じゅうぎょういん ちゅうじつ よ しもべ まえ すこ
めます。資産家は 1 人目の従業員と 2 人目の従業員を、「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのも

ちゅうじつ おお かんり しゅじん いっしょ よろこ ふういんしょにじゅうごしょう
ものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」(マタイ福音書 2 5 章

にじゅういち にじゅうさんせつ い さんにんめ あず いちおくえん かく いちおくえん
2 1、2 3 節) と言って、ほめます。しかし 3 人目は、預かった 1 億円を隠していたため、1 億円のままで

じぎょう しっぱい しさんか もときん へんのう もと おそ いちおくえん へ
す。もしも事業に失敗しても資産家から元金の返納を求められることが恐ろしくなり、1 億円が減らないよう

ちちゅう かく しさんか さんにんめ じゅうぎょういん しか あず いちおくえん と かせ じゅうおくえん
地中に隠しておいたのです。資産家は 3 人目の従業員を叱り、預けていた 1 億円を取り返して、1 0 億円を

ちくざい ひとりめ じゅうぎょういん あた
蓄財している 1 人目の従業員に与えました。

わたし かみ あず ちしき たいりよく ざいさん つか しごと がくせい ばあい
私たちは、神さまから預けられている知識や体力や財産を使って仕事をすることができます。学生の場合、
べんきょう しごと せんぎょうしゅふ ばあい かじ しごと たちば かみ あず
勉強が仕事です。専業主婦の場合は、家事が仕事です。だれでもそれぞれの立場で、神さまから預けられている

つか しごと かみ あず つか しごと ひと かみ
ものを使って仕事をすることができます。神さまから預けられているものを使って仕事する人を、神さまはほめて

ちゅうじつ よ しもべ まえ すこ ちゅうじつ おお かんり
くださいます。「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させ

しゅじん いっしょ よろこ かみ わたし
よう。主人と一緒に喜んでくれ」と、神さまは私たちをほめてくださるのです。

ごまんえん にまんえん いちまんえん ちしき たいりよく ちゅうじつ つか わたし かみ
5 万円でも 2 万円でも 1 万円でも、知識でも体力でも、忠実に使わなければなりません。私たちは神さま

しん わたし しん かみ わたし ちゅうじつ つか ちしき たいりよく ざいさん あず
を信じています。私たちが信じている神さまは、私たちが忠実に使うために知識や体力や財産を預けてく

かみ あず つか しごと ひと かみ ちゅうじつ
ださっているのです。神さまから預けられているものを使って仕事する人を、神さまはほめてくださいます。「忠実

よ しもべ まえ すこ ちゅうじつ おお かんり しゅじん いっしょ
な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に

よろこ
喜んでくれ」と。

6. 木曜日：賞を得るために

しよはつしょうじゅうよん じゅうななせつ よ
ローマ書 8 章 1 4～1 7 節を読んでみましょう。

かみ れい みちび もの みな かみ こ ひと どれい ふたた おそ おとしい れい
「神の霊によって導かれる者は皆、神の子なのです。あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊

かみ こ れい う れい ちち よ れい
ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。この霊

かみ こども れい いっしょ あか こども
こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒に証ししてくださいます。もし子供であ

そうぞくにん かみ そうぞくにん きょうどう そうぞくにん とも くる
れば、相続人でもあります。神の相続人、しかもキリストと共同の相続人です。キリストと共に苦しむなら、

とも えいこう う
共にその栄光をも受けるからです。」

わたし かみ せいれい みちび かみ しん わたし かみ こ
私たちは神さまの聖霊に導かれて、神さまを信じることができました。だから私たちは「神の子」です。

わたし かみ こ おや かみ そうぞく そうぞくにん そうぞく う
私たちは神の子ですから、親である神のものを相続する相続人です。相続とは、受けつぐことです。たとえば
ざいさん そうぞく おや ざいさん こ う わたし かみ あい う わたし あい
財産の相続は親の財産を子が受けつぐことです。私たちが神の愛を受けついでいるので、私たちも愛します。
わたし かみ けんい う わたし けんい わたし かみ えいえん う
私たちは神の権威を受けついでいるので、私たちにも権威があります。私たちが神の永遠を受けついでいるの
わたし えいえん いのち い せいれい みちび かみ しん わたし おや かみ おな そうぞく
で私たちも永遠の命を生きます。聖霊に導かれて神を信じている私たちは、親である神と同じものを相続
する「神の子」なのです。

しよはつしやうさんじゆうにせつ よ
ローマ書 8 章 3 2 節を読んでみましょう。

「わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しませず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたし
たちに賜らないはずがありませんか。」

わたし すく もっと たいせつ み こ わたし あた ちち かみ わたし み こ
私たちを救うために最も大切な御子イエスを私たちに与えてくださった父なる神さまは、御子イエス
さまだけでなく、すべてのものを私たちに与えてくださいます。愛も権威も永遠も、どんなものでも、父なる神は
わたし あた わたし かみ こ わたし あた そうぞくにん
私たちに与えてくださっています。私たちが神の子であり、どんなものでも与えられる相続人です。

きやう しやう え しやう
今日のテーマは「賞を得るために」です。賞は、すばらしいものです。

かみ わたし あい しやう あた かみ わたし けんい しやう あた
神さまは私たちに、愛という賞を与えてくださいます。神さまは私たちに、権威という賞を与えてくださ
います。神さまは私たちに、永遠の命という賞を与えてくださいます。どんなものでも与えてくださる神さま
を信じていきましょう。

7. 金曜日：さらなる研究

なな きんようび けんきゆう
水曜日に学んだ「タラントンのたとえ」を、もう一度学びます。マタイ福音書 2 5 章 1 4 ~ 3 0 節を
読んでみましょう。

「さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。まず、五タラントン預か
った者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覽
ください。ほかの五タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しの
ものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』次に、二タラントン預か
った者も進み出て言った。『御主人様、二タラントンお預けになりましたが、御覽ください。ほかの二タラントンもうけ
ました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのもの
を管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』ところで、一タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、
あなたは時かぬい所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろし
くなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地のなかにかくしておきました。御覽ください。これがあなたのお金で
す。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが時かぬい所から刈り取り、散らさない所からかき集めるこ
とを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、
利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者に
与えよ。だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げ
られる。この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ざりするだろう。』

マタイ福音書 25 章 14 ~ 30 節には、「預ける」とか「預かる」とかが、何度も書いてあります。

主イエスを信じている人なら、だれでもみんな神さまから預かっているものがあります。主イエスを信じている人が、だれでも神さまから預かっているものは、神さまの言葉である『聖書』です。

水曜日にも学んだとおり、神さまから預かったものは忠実に使わなければなりません。神さまの言葉を隠す人は、忠実ではありません。神さまの言葉を他の人たちにも伝えて伝道することが、忠実に使うことです。

セブンスデー・アドベンチスト韓国教団で総理を以前しておられた金大成先生が言っておられました。「だれにでもできる伝道方法がある」と。だれにでもできる伝道方法は、「種まき伝道」です。トラクトやチラシを配るのです。自分の言葉で主イエスのことを話せない人でも、トラクトやチラシを他の人たちに配ったり、郵便で送ったりはできます。だれにでもできる「種まき伝道」でトラクトやチラシを他の人たちに配って、たくさんの人たちに主イエスのことを伝えてください。

他の人たちに主イエスのことを伝える人を、神さまは、ほめてくださいます。「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ」と、神さまは私たちをほめてくださいます。私たちが他の人たちに神さまの言葉を伝えるために、神さまは私たちに「神さまの言葉」である聖書を預けてくださったのです。